

■ 共通事項とは何か。

1 共通事項の意味

今回新たに加わった。

〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の活動の中で、**共通に働いている資質や能力**であり、**造形活動や鑑賞活動を豊かにするための指導事項**である。

〔共通事項〕の共通とは、

- 「A表現」と「B鑑賞」の2領域及びその項目、事項のすべてに共通するという意味
- 造形への関心・意欲・態度、発想や構想、創造的な技能、鑑賞などの能力に共通して働くという意味

共通に働いている資質や能力とは、

- 形や色などの特徴をとらえる能力
- イメージをもつ能力

この能力は、表現及び鑑賞の活動の基になるとともに、対象からの情報を的確にとらえ、それを主体的に判断するコミュニケーション能力の基盤となるものである。

どの内容にも必ず必要なものであり、含まれているもの

キーワードは、形、色、イメージ！

2 〔共通事項〕の内容

〔共通事項〕は、(ア)及び(イ)の二つで構成されている。

(ア) 自分の感覚や活動を通して形や色などをとらえる
(イ) 自分のイメージをもつこと

アとイは相互に関連し合う関係にある。

自分の感覚や活動とは、視覚や触覚などの感覚、持ち上げたり動かしたりする行為や活動のことであり、児童自身の主体性や能動性を示している。

形や色などとは、形や色、線や面、動きや奥行きなどの対象の特徴のことである。

自分のイメージとは、児童が心の中につくりだす像や全体的な感じ、または、心に思い浮かべる情景や姿のことである。

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して次の事項を指導する。

1・2年	ア 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと
3・4年	ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと
5・6年	ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと

3 指導の配慮事項としての共通事項

指導に当たっては、次のことに配慮する。

- 「共通事項」が表現や鑑賞の領域や活動などの全体にかかわる事項であることを踏まえて、これまで行われてきた指導内容や方法を「共通事項」の視点で検討し、改善することが重要である。

より具体的に児童を見つめたり、指導の改善を図るとい
う「指導の配慮事項」として考えることができる。

- 「共通事項」は、「共通事項」だけを題材にしたり、どの時間でも「共通事項」を教えるから授業を始めたりするなどの硬直的な指導を意図したものではない。

「共通事項」は、(1)のリード文が、『「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。』となっている。「共通事項」だけを特別に取り出して題材化するのではなく、表現や鑑賞の題材の中で「共通事項」を押さえて指導していくことになる。

児童が普段の生活で発揮している資質や能力であり、形や色などを活用してコミュニケーションを行う児童の姿としてあらわれることに配慮しながら、指導を具体化することが必要である。

具体的には、例えば、

- 児童が絵の具を混ぜて偶然できた色にどのような感じをもつのかを確かめながら指導を展開する。
- のこぎりで板材を切るときの音、腕の力の入れ方、繰り返しのリズムなどからどのようなイメージをもっているかを児童の姿からとらえて指導を改善する。
- グループで活動をしている児童がどのようなイメージを友人と共有しているのか、つまずきを見せる児童の原因は何かなどを把握する視点として活用する。
などが考えられる。

- 「共通事項」は、単独で評価することは基本的にしない。

「共通事項」を働かせて発想したことや、技能を働かせたこと、あるいは、鑑賞したことなど、「発想や構想の能力」、「創造的な技能」、「鑑賞の能力」として評価していくことが基本的なとらえ方である。

【例】

評価項目

児童が、互いに話し合いながら、活発に活動していたかどうか。

「共通事項」の視点で見直した場合

児童が、自分の形や色を手がかりにしながら、友達と話し合っ
てイメージを膨らませていたかどうか。